

芳賀の史跡めぐり

-2-

村づくりの原点 - 芳賀村役場跡

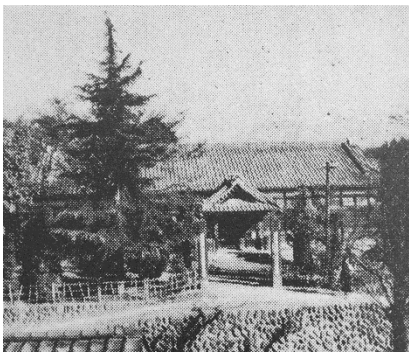
明治二十二年四月、町村制の実施に伴い、南勢多郡のうち勝沢、小神明、端気、五代、鳥取、小坂子、嶺の7か村を合併して芳賀村が誕生しました。

そして、その年の四月二十一日と二十二日の両日に、村会議員の選挙会

が勝沢の東曲輪にある正覚寺において開会され、一級議員、二級議員、各6人が選ばれました。五月六日には村会を招集して、初代村長に多賀谷正士氏、助役には近藤嬉兵太氏が当選しました。

こうして自治機関の整備ができ、同月二十五日に役場を勝沢の正覚寺内に置き、村役場開庁式を盛大に挙げました。

村長以下職員の努力によって、村政は改善され



昭和29年撮影

ましたが、国県税、戸籍、兵事、選挙等の委任事務が多くなり、庁舎が手狭になったため、大正六年に村役場の改築を決定し、勝沢字東曲輪甲725番地に、一般村民の寄附によって大正七年四月に竣工するに至りました。建築費は5099円、庁舎の大きさは、間口13間、奥行5間、建坪65坪、小使室、物置などが新築されました。その後、昭和三年十一

月に2階建の倉庫、昭和十二年四月に庁舎東側に会議室1棟を増築しました。

昭和二十九年四月一日に町村合併により芳賀村は前橋市に編入されました。

◇エピソード◇

当時の新聞に、「熊の出る前橋市」とか「僻地教育指定校のある前橋市」などと揶揄されました。今までの大字が「町」となり、勝沢町、小神明町などと名称が変わりました。

昭和二十九年、前橋市へ合併すると、市の出張所として業務を開始し、昭和三十三年四月からは、前橋市公民館芳賀支館となりました。

その後、昭和三十七年十月からは、前橋市芳賀公民館と名称が変わり今日に至っています。

そして、昭和四十年五月、公民館活動も軌道に



旧芳賀村役場門柱

のり、建物も狭く老朽化したので、木造モルタル平屋建、ホール1、和室3、講義室1、事務室1、その他2の計8室、393㎡に改築されました。

昭和五十年代になると、住宅団地や工業団地の造成に伴う急速な都市化によって人口が急増し、さらに生涯学習活動の普及によって施設の拡充が必要になりました。

現在使われている芳賀公民館は、平成二年十月に新築落成されたもので



所在地

す。地域住民の交流の場、生涯学習の学びの場として活用されています。

なお、平成十九年二月十一日に旧芳賀村役場門柱の再建式典が自治会連合会によって行われました。

旧施設はすでに取り除かれ、往時を偲ぶものは石段と門柱があるのみです。

生涯学習奨励員

中山 洋子

1月の主な行事予定

1月4日(金)芳賀公民館仕事始め

1月5日(土)子育て連上毛かるた大会(芳賀公民館和室)

